

I WAS KEPT WAITING FOR
THE BLUE SKY IN VAIN.

野菜ジュース第4回 TARO タロイモ

浜田千香 = 写真・文

Photograph and text by Chika Hamada

大阪港からひゅーんと飛行機で3時間。時差は、たったの1時間。上手く時期を外せば、5000円位で格安ツアーが見つかる。はい、やすい、うまい。吉野家の牛丼のような海外旅行である。時として、海外旅行グルメにハカにされるが、そう捨てたものではない。ちゃんとお腹はふくれるし、おいしいもんだ。しかし、こ馳走でないことは確か。

日本語が通じるから、言葉の面でそう不便を感じることはない。ただ、旅行者にとって、電車、バスなどの交通機関がないことが辛いと言えは辛い。現地人が街を歩いているのは稀にしか見ない。ここで生活するのに車は絶対の必需品だ。旅行者は、レンタカーを利用するとい。青いユーノスロドスターを走らせている日本人をたくさん見かけた。車の運転が駄目な人はレンタサイクル、モヘットが便利だ。

他の点に関しては、全くの不便知らずだ。噂通り、海鼠のいる海があり、照りつける太陽がある。日本語を話す人がいる。

「ハファ・デイ」

これはこの先住民であるチャモ口族の言葉で、「こんにちわ」という意味の言葉だ。私は滞在中、この言葉を一度も口にすることはなかったし、また、耳にすることもなかった。

聞かなかったハファ・デイ。



グアムの空は、それ程青くない。
サングラスを通してみると、
丁度、期待していた綺麗な濃い青になる。

